

【限りある水】

翔凜中学校 一年 岩波 小乃葉

田に水を張る時期となり、我が家の景色は変わりこれから夏がやってきます。まぶしく一面に広がる水田。また家の中では、目覚めの洗顔に始まり、私は一日に何度も水を使用します。この身近で当たり前の「水」にも限りがあることを忘れていました。

私が二年生の時、小向ダムが枯渇し、水を大切に使わないと水がなくなると言われてビックリしたのをとてもよく覚えています。節水や断水という言葉の意味を知ったのもこの時でした。父から、歯みがきやトイレ、お風呂、洗たく、料理、家庭でひとりが一日に使う水の量は二百リットル程だと教わりました。二リットルのペットボトル百本分の量が想像できず、本当にそんなに使っているのかなと、家族みんなの暮らしを振り返ったりしました。

自分達にできる節水として、トイレの大小レバーの使い分けや、歯みがきや洗顔の時には水を出しっぱなしにせず、コップや洗面器にためて使うようにしました。お米や野菜を洗った水を草木にあげたり、カレーの後の皿はウエスで拭きとってから洗うようにしました。お友達は、家のお風呂に水をはらず、おじいちゃんちに入りについていました。

そうした生活も、市の方々が水を運び入れたり、みんなの節水や雨などで、数週間もすると心配がなくなりました。すると、いつの間にか節水の意識は薄れ、水を出したまま洗面をしてしまうようになりました。そして、つい水道の水は出せば出るのが当たり前を感じ使い放題の感覚になっていきます。

水はどこから来るのでしょうか。水は常に場所を移動し形を変えて循環しているそうです。水は雲になったり、雨や雪になったり、川になったりと姿をかえてぐるぐると自然の中をめぐっているのです。私は雨の匂いが苦手で、また、湿気がうつとうしく、雨が降らないで欲しいと思っていました。けれど私の好きな田の水や雪と同じものであり、降らな

ければとても困ってしまう事がわかり、少しだけ雨を好きになりました。また、安全できれいな水道の水が使えるのは、浄水場や下水処理場、いろいろな設備があり、二十四時間、三百六十五日休むことなく働いている人がいるからだそうです。

今日改めて水と向き合い、水に感謝しながら、「水がなくなるよ」と言われてビックリした時のことを忘れずに、節水を習慣にしていかなければならないと思いました。そして同時に、水を汚さない工夫も日常生活に取り入れて過ごしていきたいと思いました。

まず、節水の取り組みとしては、私はお風呂のシャワーをたくさん使ってしまうので、細めに出すようにします。洗顔や歯みがきでは、水をためて行います。また、食器洗いも溜め洗いをします。

次に、水を汚さない工夫ですが、食事の食べ残しや飲み残しはしないようにします。油污れなどはふき取ってから洗いたいです。そして、お風呂の排水溝の髪の毛を細目にかき取ることを心がけます。

わたしの取り組みは細やかですが、毎日続けることで、きっと家族も水の大切さに気づき水を大事にするようになると思います。私自身も周囲に水の大切さを言葉で発信していきたいです。

みんなで水がある幸せに感謝し、限りある水を大切にしていきたいです。